

株式市場新聞

www.marketpress.jp

1 第403号

日経平均株価

3万7160円47銭

▲174円60銭(前日比)

TOPIX

2735.52

▲18.43(前日比)

2025

5/26

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪府中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



スイッチ2いよいよ発売!

想定超の人気で関連企業も恩恵

任天堂(7974)の新型ゲーム機「Nintendo Switch 2」(ニンテンドースイッチ2)がいよいよ6月5日に発売される。スイッチ2は公式ストアの第1回抽選に日本だけで220万人の応募が殺到しており、強気と言われていた初年度の生産台数でも品薄状態になる今年最大のヒット商品になるのは確実だ。任天堂は当然ながらハードの部品を供給する企業やスイッチ2対応ソフトウェアを予定している企業も恩恵を享受することになりそうだ。

第1回抽選220万人殺到

などを考慮すると、

スイッチ2の税込—内専用で4万9800円と現行機の3万7980円から1万円

増産対応が進めばこの計画を大幅に上回る販売となりそうだ。

ソフトメーカーもスイッチ2対応ソフトを早々に発表しており、カプコン(9697)は5月13日の決算説明会で「ストリートファイター6」、「祇・Palt of the

現行機を超える人気は確実!!

3月期の会社側では26年3月期の世界での販売計画台数を1500万台としていたが、現状の予約状況

God of the Switch 2と同じく6月5日に発売、他タイトルも鋭意制作

日経平均の日足チャート

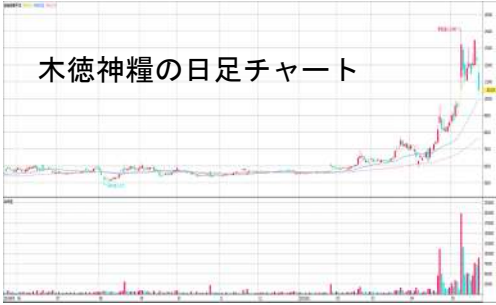


中としていた。またスクウェア・エニックスホールディングス(9684)も「ファイナルファンタジー7リメイク インターグレード」など対応ソフトを発表している。

任天堂向けのゲーム用LSIで長らく関与してきたメガチップス(6875)はスイッチ2向けで詳細は明らかにされていないが、26年3月期は連結営業利益で前期比37%増の30億円を計画している。同社の業績は長らく任天堂のハード普及台数と連動してきただけにスイッチ2が加速的に普及するなら同社の業績も連動して拡大していくことになりそうだ。

marketpress

木徳神糧の日足チャート



木徳神糧が続騰

4. 5倍増益で1対5株式分割

週明け12日、木徳神糧(270)が連続8日に発表された25年12月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比4・5倍の18億5300万円となったことが引き続き好感された。令和6年産米の需給がひっ迫するな

5月第3週の動意銘柄

か、販売単価が前年を大きく上回って推移、価格転嫁も進んだ。同時に6月30日を基準日に1対5の株式分割を行う。

医薬品下落率トップ

武田薬品工業(4502)や中外製薬(4519)、第一三共(4568)をはじめ製薬大手が大幅安、東証上場33業種中、医薬品セクタ

日新は米ベインMBO

13日、日新(9066)がストップ高。

12日の取引終了後、創業家ら経営陣が参加する買収(MBO)により非公開化を目指すとして正式に発表した。米投資ファンドのベインキャピタルが日新株の公開買い付け(TOB)を一株8100円でTOB(公開買い付け)を実施、株価はTOB価格に

ーが下落率のトップになった。トランプ米大統領が薬価を大幅に引き下げる大統領令に署名すること、米国事業への影響を懸念した売りが広がった。第1次政権中には薬価引き下げを実現できなかったが、今回は「ほぼ即時に30%から80%下げる」と主張しているという。

サヤ寄せする動き。

シャープ27%営業減益

シャープ(6753)が急落。26年3

月期業績予想を発表、連結営業利益で前期比26・8%減の200億円と大幅な減益を見込むことが嫌気された。既存事業の競争力を強化するとともに成長領域への事業変革を加速し

IMAGICAはMBO

IMAGICA GROUP

(6879)がストップ高。MBO(経営陣が参加する買収)を実施すると発表した。長瀬俊二郎社長が代表を務める企業がTOBを1株795円で実施し、TOB価格にサヤ寄せする動き。TOB成立後は上場廃止となる。

ていく方針。

クレハがストップ高

クレハ(4023)がストップ高。26年3

月期は連結営業利益で前期比48・5%増の140億円を見込んだ。フッ化ビニリデン樹脂はリチウムイオン二次電池用バインダー向けがEV市場の停滞から一時的に在庫調整局面にあるが、電力貯蔵システムなどの新用途も出てきており、堅調

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は6週ぶりに反落しました。日経平均は前の週から593円下落しています。決算発表が終わり手掛り材料に欠けるなか、財政懸念による長期金利上昇を嫌気して米国株が軟調に推移、為替が円高に振れたことから上値が重くなり、4月安値から700円幅で上昇してきただけに当然の下値サポートは浅く、押し幅は浅く下値の堅さが意識されています。

半導体にチャンス探る

推奨銘柄は、高値圏にある銘柄、一方、三菱重工(7011)を中心に強調展開が続く防衛関連を中心に買いを入れた。今週公表されること、意が必要ですが、エヌビディアが決算発表を予定しており、半導体関連に売り、買い双方で値幅狙いのチャンスを探りたいと思います。

花咲翁



ネクスト大幅増収益初配当

14日、Next One(7094)が続騰。前日午後1時に発表した26年3月期の連結業績で、売上高230億円(前期比18・5%増)、営業利益18億円(同79・1%増)と大幅増収増益で前期に続いて最高業績更新を見込み、年20円の初配当を実施すると発表した。

半導体主力上昇目立つ

NVIDIA急騰で海外資金流入

14日、ディスコ(6146)やアドバンテスト(6857)をはじめ半導体主力株の上昇が目立った。米国株市場でエヌビディアが5・6%高と急騰、半導体関連株に買いが広がった流れが波及した。エヌビディアはサウジアラビア政府系ファンド傘下のAI関連企業との提携を材料視、時間外でも一段に買われトレンド転換した可能性が高く、東京市場で

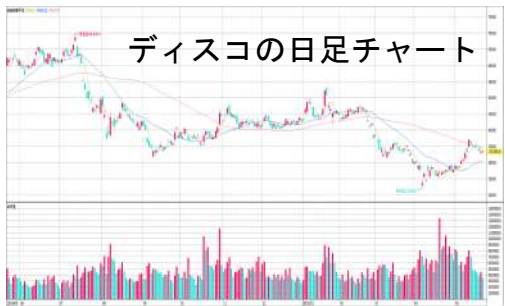
も海外ファンドの資金が流入していると見られた。

日本CMK47%最終減益

日本シイエムケイ(6958)が急落。13日の取引終了後、

26年3月期の業績予想を発表、純利益で前期比47・2%減の20億円と大幅な減益を見込んだことが嫌気された。米ドル、タイバツに対して為替が通貨高に推移していることから、対米ドル1ドル145円による為替影響を想定している。

ディスコの日足チャート



シンクロブド25%減益

15日、シンクロ・ブド(3963)がストップ安。26年3月期は連結営業利益で前期比25・3%減の8億2000万円と大幅な減益を見込むことが嫌気された。重要な経営指標である有料ユーザー数について、厨房備品購入ユーザーの減少の影響が大きい。

Aiロボ売上利益倍増

Aiロボティクス(247A)がストップ

プ高まで買われ最高値更新。25年3月期の単体決算は、売上高142億600万円(前の期比2・0倍)、営業利益24億8000万円(同97・3%増)で着地、26年3月期も売上高280億(前期比97・1%増)、営業利益48億円(同93・5%増)と売上、利益倍増を見込んだ。主力「Yunth」のブランドラインナップを拡大、「生VC美白美容液」をはじめ他商品も堅調で美容家電ブランドも着実に販売数を伸ばしている。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック



UTグループの日足チャート

UTグループ5連騰

45%増益で増配、自社株買い

UTグループは、5月25日の決算で、営業利益が前年比45%増の1億4,000万円、経常利益が前年比44%増の1億3,000万円、純利益が前年比43%増の1億2,000万円と大幅増益を挙げた。また、株主総会では、2025年度配当金を前年比1.5倍の150円（税引前）と決定し、増配を実施した。さらに、自社株買いプログラムも承認された。

6500万円の自己株式取得枠の設定を公表したことが好感された。

ブシロード営業益4.7倍

週末16日、ブシロード（7803）がストッパー高。25年6月期の業績予想について、連結売上高で510億円から535億円（前期比15.6%増）、営業利益で30億円から35億円（前期比16.7%増）と、大幅増益を予想した。

野村マイク6割減益

野村マイクロ・サイエンス（6254）が急落。26年3月期は連結営業利益で前期比59.7%減の62億円と大幅な減益を予想した。

前期に米国大型水処理装置案件を計上した反動などを考慮した。eWeLL（5038）が大幅反発。25年12月期の第3

eWeLL大幅増収増益

38）が大幅反発。25年12月期の第3

5月第4週の動意銘柄

ホリフーズ利食い売り

ホリフーズ（3077）が大幅反落。26年3月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比20.2%増

今週は国債入札に注目

先週の東京株式市場は6週ぶりに反落、26週線に上値を押さえられ、下値は75日線を意識する展開でした。ただ、今週28日には低下する75日線と上昇する25日線がゴールデンクロスしそうで、5月13日高値からの調整がGCにより完了するのが分かりやすいシナリオです。

投資部門別売買動向では海外勢が現物を7週連続買い越していたことが分かりました。この間、生損保、銀行、信託銀行に加え、個人投資家も売り越しており、国内勢の売りを海外勢が吸収しているという構図が浮き上がります。足元の調整で短期6日レシオは5月13日の160%台から先週は60%台まで低下、過熱は冷めてきており、あとは材料待ちとなりましょう。

今週は国内で40年債と2年債、米国も2年債と5年債、7年債の入札があり、FOMC議事要旨が公表されます。また、エヌビディアの決算発表も重要です。 日々勇太郎



児玉化学は買収効果

児玉化学工業（4222）が7連騰、東証全市場で上昇率トップに立った。26年3月期は連結売上高で前期比4.7倍の750億円、営業利益で同

の2億4000万円を見込んでいた。これを踏まえて、これまでの構築してきた既存事業の安定に加え、新たな事業開発に挑戦して行く計画。

～決算情報～

ハリマ化成G

今期57%最終増益見込む

25年3月期は増収で黒字に浮上

ハリマ化成グループ（4410）の25年3月期通期の連結決算は、売上高1010億600万億円（前の期比9.4%増）、営業利益20億8300万円（前の期2億1100万円の赤字）、最終利益7億6300万円（同11億6100万円の赤字）と増収で黒字浮上した。

ただ、原材料の値下がりによる販売価格低下によりローター事業の売上高が減少、買収した事業の移行費用や海外金利上昇に伴う支払金利の増加、関連会社の業績悪化、減損損失の計上により、前回予想を下回った。

26年3月期は売上高1080億円（前期比6.9%増）、営業利益30億円（同44.0%増）、最終利益12億円（同57.3%増）と増収大幅増益を見込んでいる。

日本精線

25年3月期29%営業増益

ステンレス鋼線増加し金属繊維も堅調

日本精線（5659）の25年3月期は連結売上高で467億4900万円（前の期比4.5%増）、営業利益で45億7600万円（同29.4%増）、純利益で32億5000万円（同25.4%増）となった。太陽光発電パネルなどの製造プロセスで使用される極細線に対する需要増をはじめステンレス鋼線の販売量が増加し、また金属繊維部門の受注も堅調に推移した。

中国での太陽光パネル減産を受け、その製造プロセスで使用される極細線の販売が減少する見込みであり、26年3月期は売上高435億円（前期比7.0%減）、営業利益32億円（同30.1%減）、純利益23億円（同29.2%減）を見込む。米国の関税政策による影響も考慮し、保守的に見積もっている。



D O 海 3 O 株（ホ
は 0 上 3 M が 8
5 万 H 0 P が 7
0 株 D 0 O じ 2
0 、は 万 H て 5
0 M 上 株 D 安 の
万 S 限 、は い の
株 & 7 東 上 。 損
の A 0 京 限 S

損保株が総じて安い

自社株買いも減益予想を嫌気

グアイ S (6) イホ東スデ O S
ラン シ & (8) ンール京 0 イホ O
プス シ A M 7 グル海 (8) ンール M
21日

目ラン期が益61増(増)益を年未2はに(9
標経営嫌を%1(前)で3月定15(9
最管気を減億億)3期と日00
終計さを見)円比、3の%日続
年画入込と(同業3業%の%落
度同だ2益・8の取引超を、
の時に2利8億引了えた下
20表、プ中減・3後率

新規増別する現金を分につ所反ツ G
規増担日本臨金5からいてが信発。M
資担証券証時20%以上委用。O
金保金金措置%以上託取。イン
が保金融置%以上保引。タ
入徴融措%以上証の。ン
した措柄除率買の券4
から置柄、金買引取7
新除た、と率買引取8
規資た、と率買引取4
金入、と率買引取4
流から、と率買引取4
入した、と率買引取4

GMOインタ信用規制解除

見28年3月期に営業
込益3750億円を
入込

京成14%営業減益嫌気

か(9235)とD2C
が(9235)とD2C
が(9235)とD2C
が(9235)とD2C

か(9235)とD2C

自己株式取得枠の設
定を発表したが、2
6年3月は各々21
%最終減益、13%
経常減益、13%
とが嫌気された。

(ネット通販)事業者
向けランディングペ
ージ特化型クラウド
サービスで協業を強
化したと発表した。
同社の不正検知サー
ビスと連携、D2C
事業者の利益を守る
不正検知ロジックの
共同開発・展開を本
格的に進めるとして
おり、協業による業
容拡大と早期収益貢
献を期待された。

～決算情報～

三相電機

今期72%営業増益見込む 半導体製造装置需要回復へ体制整備

三相電機（6518）の25年3月期の連結決算は、売上高160億2900万円（前の期比9.3%減）、営業利益6900万円（同89.7%減）、最終利益1億1800万円（同76.0%減）で着地。中国景況感悪化で現地子会社の収益状況は厳しいと見ていたが、海上コンテナ用モータのスポット受注などにより損益が改善、大幅減益ながら、前回の赤字予想に対して黒字を確保した。

26年3月期は売上高165億円（前期比2.9%増）、営業利益1億2000万円（同72.2%増）、最終利益1億1000万円（同7.1%減）と増収で営業収益急回復を見込む。半導体製造装置需要回復が見込まれるなか、生産と原材料・部材調達体制を整えるとしている。期末一括配当は25円を継続。

TOA

今3月期も増収大幅増益 PAX社買収効果とデジタルシフト

TOA（6809）の25年3月期の連結決算は、売上高506億2600万円（前の期比3.7%増）、営業利益35億8900万円（同18.5%増）、最終利益23億6400万円（同18.4%増）で着地。国内は関西万博関連、東南アジアでは大型都市開発や官公庁向け、北米では小売店や病院向けが伸びた。

26年3月期は売上高545億円（前期比7.7%増）、営業利益45億円（同25.4%増）、最終利益27億5000万円（同16.3%増）を計画。多言語自動アナウンスコンテンツ提供のオランダPAX社買収効果に加え、ネットワーク統合型放送システムなど関西万博の成果をフィードバックしながらデジタルシフトを進めることで前期に続き増収大幅増益を見込む。年間42円（前期40円）へ増配を予定。



ビットコイン、リミックスポイント（3825）、メタプラネット（3350）、gumi（3903）の暗号資産関連銘柄が揃ってストップライスが上がり、1万ドルを超す最高値を更新したことを受け、関連銘柄へ買い気配が再燃した。米国でステイブルコインに関連する法案が進み、ムービーアイズの米国債格下げの影響で暗号資産に資

暗号資産関連S高

ビットコイン最高値に上昇

金（シフト）と見られている。ト

暗号資産軒並み急落

週末23日、リミックスポイント（3825）を急落。昨日はビットコインが史上最高値を更新したことを受け、関連銘柄へ買い気配が再燃した。この日は、利食いが急ぎ、財政懸念から上昇していた米国債とで資金が優良銘柄へシフトしたようだ。

三菱重工業7連騰で新値追

三菱重工業（7011）が7連騰で連日の最高値。防衛関連の中核的存在として人気が集めており、ヤマハ発動機（72

ジーエヌアイS高

ジーエヌアイ（2160）がストップ高。子会社のジャイア・セラピーの肝臓癌治療薬目薬として「ヒドロニドン（F351）」の評価項目を達成したと発表した。25年第3四半期に中国新薬申請を提出する

1クンの「TOKYO GAMESTO KEN（TGT）」が海外大手4取引所へ同時上場したことにも引き続き支援材料になった。

～ 決算情報 ～

立花エレテック

ナカバヤシ

インド新会社通じアジア拡販
今期増収減益も年100円配当継続

立花エレテック（8159）の今26年3月期は連結売上高で2250億円（前期比2.2%増）、営業利益で75億円（同8.8%減）、純利益で21.9%減）と増収減益を見込み、配当は第2四半期末50円、期末50円の計100円を継続する。減価アップに対応するための価格転嫁の影響や中国市場の回復遅れなどを考慮し慎重な計画を立てている。

布山尚伸社長は「DX推進と人財への投資を積極的に進めることで、次期中長期経営計画の足場固めとし、200年企業に向けた経営基盤の強化を図って行く」とし、新たに営業を開始したインドの新会社を通じてのアジア地域への拡販にも意欲を見せた。上限100万株（発行済株式総数に対する割合4.35%）または50億円の自己株式取得枠の設定も発表した。

26年3月期最高益を予想
デジタル融合で収益力強化進む

ナカバヤシ（4968）の25年3月期の連結決算は、売上高627億6700万円（前の期比2.8%増）、営業利益17億8700万円（前同3.9倍）と増収で収益急回復。26年3月期は売上高635億円（前期比1.2%増）、営業利益25億4000万円（同42.1%増）と5期ぶり過去最高益更新を見込んだ。

各セグメントの既存事業にデジタルを融合させることで新規受注につなげており、低採算性案件の選別やシステム開発の内製化の一方、試験関連受注や環境に配慮した重箱、紙製パッケージの受注が拡大、大口OEM受注と値上げ効果も収益を押し上げ、自社製品とネット限定品を扱うECも順調に拡大している。引き続き事業構造改革と不採算事業の見直し、デジタル化により付加価値を高め、海外市場も開拓することで収益力を強化する。

大和ハウス工業

英和

計画上回り過去最高業績
開発物件売却と米国戸建住宅拡大

大和ハウス工業（1925）の25年3月期の連結決算は計画を上回り、売上高5兆4348億1900万円（前の期比4.5%増）、営業利益5462億7900万円（同24.1%増）と増収大幅増益で過去最高業績を更新した。コスモイニシアと大和リゾート連結除外による1300億円超の減収要因を開発物件の売却と米国戸建住宅の拡大でカバー、事業施設請負・分譲の粗利率改善や戸建住宅の工期短縮によるコスト削減により収益性も改善した。

26年3月期は売上高5兆6000億円（前期比3.2%増）、営業利益4700億円（同14.0%減）と増収減益を予想しているが、退職給付数理差異の影響を除くと実質は増益。創業70年記念配10円を上乗せ年間配当を165円（前期150円）へ連続増配する。

中期経営計画前倒し達成
特殊車両好調、デジタル投資需要も

英和（9857）の25年3月期は連結売上高471億3600万円（前の期比8.9%増）、営業利益27億8600万円（同19.8%増）、純利益19億5400万円（同17.2%増）と26年3月期を最終年度とする中期経営計画を前倒しで達成した。社会インフラ市場で使用される防災・減災、国土強靱化に関連する特殊車両の販売が好調に推移。化学業界や電力業界においては、老朽設備の安定稼働を目的とした更新需要や生産性向上につながるデジタル投資需要を取込んだ他、産業用装置・重電設備業界向けなども堅調に推移した。

26年3月期は連結売上高485億円（前期比2.9%増）、営業利益28億6000万円（同2.6%増）、純利益19億6000万円（同0.3%増）と増収増益を見込む。

～ 決算情報 ～

カプコン

9期連続最高益を見込む
長期的に年間1億本の販売目指す

カプコン（9697）の今26年3月期は連結売上高で1900億円（前期比12.0%増）、営業利益で730億円（同11.0%増）、純利益で510億円（同5.3%増）と13期連続の営業増益かつ全ての利益項目で9期連続最高益を見込んでいる。

前期は大型新作「モンスターハンターワールド」が販売本数1000万本を突破したが、今期は5月23日付で「鬼武者2」のリマスター版、Nintendo Switch2向けに「ストリートファイター6」、「祇：Path of the Goddess」を6月5日に発売を予定しており、他タイトルも鋭意制作中としている。辻本春弘社長は「緻密なデータ分析に基づく価格施策により、販売本数を拡大させ、長期的に年間1億本の販売を目指す」と意欲を見せる。

日本トリム

26年3月期は11%増収
海外案件具体化、ボトルドシェア拡大

日本トリム（6788）の26年3月期は連結売上高で250億円（前期比11.3%増）、営業利益で35億4000万円（同7.7%増）、純利益で23億円（同2.6%増）と増収増益を見込んでいる。

整水器販売事業では営業人員採用強化で前期比9.2%増、間接販売部門は既存OEM代理店の活性化や新規海外案件（インド、タイ、マレーシア）の具体化を図り、同17.6%増を見込み、ボトルドウォーター事業はシェア拡大に向け、広告・マーケティング施策を一層強化し、同26.9%の大幅増収を計画。電解水透析事業は6施設への導入見込みで84.3%の大幅増収を計画している。

同時に上限25万株（発行済株式総数に対する割合3.26%）の自己株式取得枠の設定を発表した。

ムーンバット

鎌田社長アジア展開に意欲
25年3月期は61.6%営業増益

ムーンバット（8115）の25年3月期は売上高で119億4600万円（前の期比12.6%増）、営業利益で7億200万円（同61.6%増）、純利益で5億8300万円（同7.0%増）となった。猛暑を背景に春夏物が好調に推移し、きめ細かい商品開発提案、プロパー販売の促進等の販売施策が寄与した。

26年3月期については売上高で116億円（前期比2.9%減）、営業利益で5億5000万円（同21.7%減）、純利益で4億5000万円（同22.9%減）を見込む。インバウンドを中心に人気を博したブランドの取扱終了によるマイナスなどを考慮し慎重な計画。大阪取引所での会見の席上、鎌田 尚社長は「自社ブランドを育成してアジア展開を進める」とし中国を含めて意欲を見せている。

荒川化学工業

前期黒字化今期大幅増益
光硬化樹脂や精密研磨剤伸びる

荒川化学工業（4968）の25年3月期の連結決算は、売上高802億3600万円（前の期比11.1%増）、営業利益10億5700万円（前の期26億1700万円の赤字）と増収で3期ぶりに黒字に浮上。26年3月期は売上高850億円（前期比5.9%増）、営業利益28億円（同2.6倍）と増収大幅増益を予想した。収益改善に伴い年間配当を前期49円（前の期48円）、今期50円へ連続増配を計画。

スマートフォン出荷回復やデータセンターへの投資拡大を背景に機能性コーティング材料用光硬化型樹脂やハードディスク用精密研磨剤が伸び、アジア向けに板紙向け紙力増強剤が堅調に推移、千葉アルコンの水素化石油樹脂を高付加価値用途へ拡販し稼働率向上を図ることで一段の収益改善を見込む。

～ 決算情報 ～

DmMiX

第1四半期は0.7%増収
業務受託堅調でライドシェアなど開拓

ダイレクトマーケティングミックス（7354）の25年12月期の第1四半期（1～3月）決算は、連結売上収益で59億8500万円（前年同期比0.7%増）、営業利益7億4700万円（同4.7%減）、純利益4億6300万円（同1.7%増）となった。

新型コロナウイルスワクチン接種関連の需要が著しく縮小したが、マーケティング事業では既存顧客や新規顧客へ向けたアウトバウンド／ハイブリッドの業務受託が堅調に推移したほか、サービス展開が進むライドシェア分野などDXフルフィルメント領域の開拓も進展している。

通期は売上収益で220億円（前期比5.0%増）、営業利益18億円（同25.5%増）、純利益11億円（同31.8%増）の従来予想を据え置いた。期末一括配当を6円（前期4円50銭）へ連続増配を予定。

eWeLL

第1四半期61%営業増益
主力「iBow」の新規顧客獲得順調

eWeLL（5038）の25年12月期の第1四半期（1～3月）決算は売上高で7億5400万円（前年同期比31.2%増）、営業利益で3億7600万円（同61.0%増）と大幅な増収増益となった。

2024年に提供を開始した訪問看護業務の効率化に貢献する「AI訪問看護計画・報告」に続くAIを活用した新サービス「AI訪問予定・ルート」の開発を推進するとともに、地域包括ケアプラットフォームである「けあログっと」の機能拡充など、マルチプロダクト戦略を推進。この結果、主力サービス「iBow」の新規顧客獲得が順調に推移している。

通期は売上高33億4900万円（前期比30.3%増）、営業利益14億9400万円（同31.6%増）と従来予想を据え置いた。期末一括配当を15円（前期12円）へ増配。

購読会員募集中！

<https://marketpress.jp/subscribe/>

株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

短期値幅取り候補銘柄！！



【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!!
花咲 翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞

www.marketpress.jp



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



日銀が保有するETFは時価で約70兆円

先週、話題になったのが日銀がかつて金融システム安定策として銀行から買い取った株式の売却である。2016年4月から10年間で売却をする出口戦略を進め、約1兆3000億円あった保有株は4月末で約240億円に縮小

した。概ね月間100億円づつ売却してきたが、7月末には売却が完了する。そうならば次に市場が注目しているのは簿価で約37兆円、時価で約70兆円の日銀が保有するETFの出口戦略である。分配金だけでも約1兆円あり、この収入は日銀が利上げを円滑に進める上で貴重な財源でもあるので、売却には慎重にならざるをえない。銀行から買い取った株の売却完了時の日銀からのコメントには注目したい。

今週のレンジは3万6300円〜3万7500円を予想する。
(ハチロク)

先週の日経平均は前週末比約593円安と6週ぶりに反落、週足陰線となった。前週まで連続上昇し騰落レシオは19日には146%まで達し過熱感が出ていたので、上げ一服となくとも不思議ではなかった。22日には米国債の

入札が不調で、米国金利が上昇し株価が大きく下落したが日本株は3万7000円台を割り込むと買いが入ってくるよう底堅さも感じられた。注目の日米関税交渉は3回目

見方が有力だ。それまでは大きく動くことはできず個別物色の展開が続くと思われる。

チャートでは一目均衡表の雲の下限(3万7865円)に上値を抑えられるように調整しており、当面は雲の下限が抵抗ラインとなつてこよう。週足で見ても雲の上限(3万7527円)を上回って引けておらず、上値の重さを感じる。今週は一進一退のもみ合い相場を想定する。

今週は一進一退の揉み合い

次の関心は日銀 ETF出口戦略

トンで行われる予定だが、交渉は難航が予想され、大きな決定は6月のG7サミットでの首脳会談になるものと

日経225先物日足チャート



年後半上昇へ押し目買い

数カ月は狭いレンジで推移

日本株は4月初旬の急落相場から値幅も期間も予想以上の反発相場となった。

トランプ大統領が自国の経済成長や株価動向を犠牲にしてまで強硬姿勢を貫くことはなさそうだと観測が背景だろう。相互関税表明のインパクトからすれば意外高となったが、5月中旬以降はさすがに勢いが止まっている。調整色が強まったのは外部要因というよりテクニカルの側面が大きい。

日経平均騰落レシオは5月15日に146%に達した。2000年以降今回同様過去10営業日で騰落レシオが92%から140%まで上昇したケースは2006年8月、2014年11月、2022年7月と3回あったが、いずれもその後2カ月ほどは上下5%のボックス相場となっている。今回に当たってはめると3万6000円〜3万9000円である。



光世証券 エグゼクティブ・マネージャー

西川 雅博 氏

さらに、今回の関税ショック安とその後の反発相場は2020年のコロナショック時及び昨年8月の暴落時とよく似た形状になった。急落からのV字型回復である。もちろん下げの背景は全く違うが、指数先物でシェアが高いCTAなど「順張り投資家」の投資手法が理屈抜きで日柄や値幅に似通った影響を与えている可能性がある。

過去2回のケースでも急落前の水準まで急反発した後は一息が鈍った。今回も関税ショック前の株価に一気に戻っただけに、ここからの上値はそう簡単ではなさそう

だ。関税交渉の期限が延長されたことで波乱要因は軽減されたが、同時にデールの成果を狙うトランプ大統領の発信も沈静化する。市場の関心がファンダメンタルズへ移行すると、交渉が決着するまでは良くも悪くもインパクトに欠ける相場展開になりがちだろう。

予想で7%減益との集計となった。日経平均では3万7000円で予想PERは15.3倍である。減益予想が目立つ自動車・電機など輸出企業を中心に関税交渉の不透明感があるが、それらの株価はすでに相当水準まで売り込まれたとみている。輸出企業の想定為替レート（ドル/円）は平均143円で半数以上の企業は140円以下である。今後はバリュエーションや需給動向からむしろポジティブサプライズの反応を意識すべき水準だろう。

「予測不能さを演出し、相手に揺さぶりを掛ける。恐れを抱かせて相手に譲歩案を用意させる」というのがトランプ流交渉術だ。関税を巡る動きに翻弄されたマーケットだったが、当初のインパクトに比べて事態がさらに悪化する可能性は低いとみている。この問題が一巡すれば、米国では利下げを含め景気・経済対策に焦点が移るだろう。

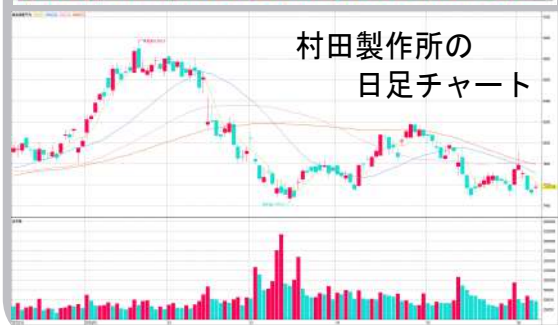
向こう2〜3カ月は比較的狭いレンジの保ち合い相場を予想するが、年後半の上昇に備え押し目買いが有効と考える。

個別では東急不動産ホールディングス（3289）、富士フイルムホールディングス（4901）、村田製作所（6981）。

問屋不動産HD
の日足チャート



村田製作所の
日足チャート



潮流

防衛関連に好機到来!!

史上最高の防衛システム構築

marKet/bAnk

米国は弾道ミサイルや極超音速兵器といった新たな脅威に対応するため、次

世代ミサイル防衛システム「ゴールデン・ドーム」を構築する計画を進めている。

このシステムは、宇宙ベースの迎撃技術とAI（人工知能）を活用し、従来の防衛システムを大幅に進化させたものだ。5月20日、トランプ米大統領は、敵国の攻撃から全米を防衛するシステムに3年で1750億ドル（約25兆円）の予算を投入する計画を発表した。

トランプ氏は「世界や宇宙から発射された、いかなるミサイルも迎撃可能となる。史上最高のシステムだ」と強調した。2029年1月の任期終了までに運用可能とする。従来の弾道ミサイル防衛（BMD）にとどまらず、極超音速滑空体（HGV）や巡航ミサイル、人工知能（AI）を搭載する数百機単位のドローン群（スウォーム）など多様化・複雑化する「経空脅威」に対処するための統合防空ミサイル防衛（IAMD）システムの一形態だ。

このシステムの中心には、技術集約型の独立する探知・追跡センサー、迎撃システム、指揮統制ネットワークを有機的に結合したいわゆる


システム・オブ・システムズがあり、それを実現するには国家的事業としての取り組みが求められる。

日本は量子コンピューターやセンサーなどの技術は世界トップレベルだ。5月22日、IHIは人工衛星を使

って宇宙から地球の地表情報を集める事業を始めると発表。衛星に付いたレーダーから電磁波を照射し、地表の状況を観測する。電磁波の反射を利用するレーダー衛星は夜間や悪天候でも地表を観測できる。衛星を活用して防衛力の強化が可能となる。IHIなど世界最先端の技術力を持った日本企業が米国に投資するチャンスだ。

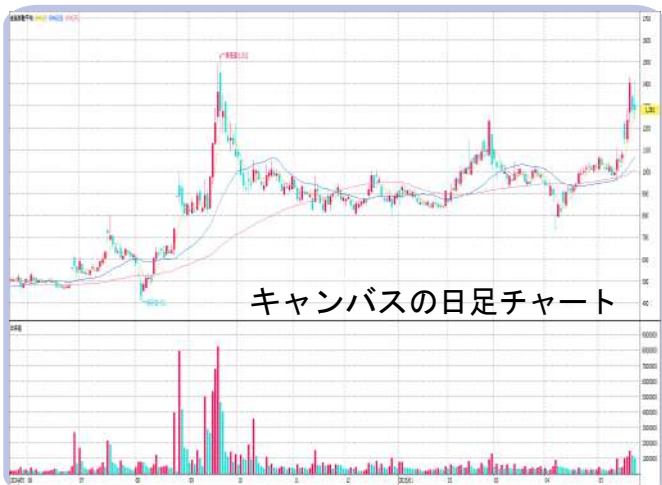
米国と同盟国の日本は東アジアにおいて増大する経空脅威から国民の生命と財産を守るべく、ゴールデン・ドーム構想を推進する米国との共同開発契約を結び防衛力を強化することが国家の優先事項だ。ゴールデン・ドームで中心的な役割を担うと見られる米国宇宙軍と自衛隊との協力と連携の強化を図ることが期待される。IHI、三菱重工、川崎重工、三菱電機、日本アビオニクス防衛関連株に注目。

潮流銘柄キャンバス（4575）、IHI（7013）、三菱重工（7011）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初
の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」で紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。
http://marketbank.jp

米国へ投資のチャンス



と年0応の務化ヤ破一金利化通ト国
 い8倍札2省ー並首方利懸過ラン政
 う月と、率0ががとみに相でが念に伴プの
 絶以、率2が債のに「国内上から減格
 不の20入った財政ギでも米財税法
 調の低1・札日でがリその期悪案
 のさ25の本財悪シ石の期悪案
 結さ25の本財悪シ石の期悪案

当面のスケジュール

- ・26日 休場：米、英
- ・27日 4月企業向けサービス価格
- ・28日 40年国債入札
5月6・7日開催のFOMC議事録
米5年国債入札
- ・29日 米1-3月期GDP改定値
米7年国債入札
- ・30日 4月失業率・有効求人倍率
5月東京都都区消費者物価指数
4月鉱工業生産、4月商業動態統計
2年国債入札
米4月個人所得・個人支出・デフレーター
- ・31日 中国5月製造業PMI、中国5月非製造業PMI、中国5月コンポジットPMI
- ・1日 OPECプラス会合
- ・2日 1-3月期法人企業統計
米5月ISM製造業景況指数
休場：中国
- ・3日 5月マネタリーベース
10年国債入札
植田日銀総裁内外情勢調査会で講演
中国5月Caixin製造業PMI
韓国大統領選挙
- ・4日 米5月ADP雇用統計
- ・5日 4月毎月勤労統計調査
30年国債入札
ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
米4月貿易収支
- ・6日 4月家計調査
4月景気動向指数
米5月雇用統計

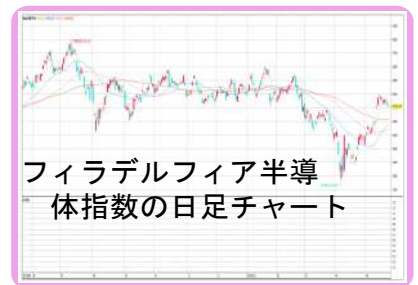
エヌビディア決算に注目

長期金利睨む動きは継続

先週の東京市場は引き続き調整色の強い動きとなった。日経平均は13日に一時3万8000円を突破する急ピッチな上昇を演じた。このことから、今後の利益確定の動きが、米連邦準備制度理事会（FOMC）の発表が予想される28日（米国時間）のFOMC議事録・個人所得・個人支出・デフレ率・長期金利も完全には不安な動きが続く。米連邦準備制度理事会（FOMC）の発表が予想される28日（米国時間）のFOMC議事録・個人所得・個人支出・デフレ率・長期金利も完全には不安な動きが続く。

相場見通し

果となったことで債券市場が大荒れとなり、金利の上昇とともに株価も下落する悪循環になった。最大の注目のポイント



右肩腱板断裂の手術で利き手が使えず、長らく休みをいただいた。縫合糸の付いたビスを肩に打ち込み、腱板断端を骨に縫着するため、簡単な手術にもかかわらず術後も炎症性の強い痛みが続き、しばらく熟睡できなかった。ようやく痛みや肩の張りが和らぎ、これからリハビリが始まるが、この時期は再断裂の危険性が高まると言われ、注意をしながら無理せずゆっくり治していこうと思っっている。東京市場はトランプ関税による下げを取り戻した。無理せず一呼吸入れ、チャンスを待つところだろう。

編集後記

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。